



竹田 英司

先月、松江市で開催された国体中国ブロック大会の思い出を伝えたい。

夕食で円卓を囲んだ際、合田心平選手に聞いてみた。「合田のツアタック（セッターがトスを上げるふりをして相手コートにボールを落とすこと）は素晴らしい。決定的瞬間を撮影しようとカメラを構えているが、いつも裏をかか

仲間意識 感じた遠征

れて撮影できない」。これに対して合田選手は「竹田さんに読まれるようでは、僕は選手としてやっていけないですよ」と失笑した。そこで私が「それなら、ツアタックをする直前、分かるように合図を送ってくれよ」と言うと、周囲の選手が「まるでカップルみたいだ」と笑った。

優勝を飾った表彰式後、選手を記念撮影する私はコートの外でカメラを構えた。誰に言われたわけでもないが、コートは選手の聖域であり、カメラを持った私が立ち入ることにはためらいがあった。すると選手たちから「竹田さん、もっと近くで撮ってよ」と声が掛かり、撮影したのが今週の久原大輝選手の一枚である。

松江遠征を通し、私は選手により近づき、仲間として受け入れられつつあることを実感した。最近では練習試合や公式写真の撮影などで慌ただしいが、選手、スタッフ全員で日本一を目指している。

（JTマネジャー）

表彰状を手に喜ぶ久原選手

